

あいぶらんど通信

2017年
7月24日(月)
あいぶらんど運動
推進委員会発行
No.54

今年も開催しました!“ながめやま牧場親子バスツアー”



バスの中の紙芝居の様子

6/10(土) 118名の組合員親子とスタッフが、あいコープのイメージキャラクターでもある“パスちゃん”のふるさと、山形県飯豊(いいで)町の『ながめやま牧場』を訪れました。バスの中では、一般的な酪農との違いや、パスちゃん牛乳の特色などを紙芝居やクイズで事前学習しました。『どうかお天気がもちますように』と祈るような気持ちで出発から約2時間後、牧場に到着です。

一面新緑に彩られた牧場には白と黒のコントラストパスちゃんたちが思い思いの所で休んだり草を食べたりしていました。ところが突然の雨です。パスちゃんたちは、ものすごいスピードで牛舎に戻ってしまいました。後から牧場の方にお話を伺うと、牛は雨が嫌いなのだそうです。放牧の様子は残念ながら最初の数分しか見られませんでした。牧場では【哺育舎】【成牛舎】【ロータリーパーラー】を見学させていただきました。



【哺育舎】
この日に生まれた子牛から生後2か月くらいまでの牛がいました。『まだ赤ちゃんだから大きい声を出さないように気を付けて下さいね』とお話をいただいた後に、ミルクあげの体験をさせていただきました。赤ちゃん牛なのに吸う力が強くて驚きました！みんな静かに子牛を撫でたり可愛がっていました。

【ロータリーパーラー】
この施設では一度に30頭の牛のお乳を搾ることができ、ながめやまにいる310頭のお乳を効率的に搾乳できるそうです。牧場職員さんが牛1頭1頭の状態を見た後、搾乳の器具を牛に付けて搾乳が始まります。



のびのびと暮らすパスちゃん



放牧パスちゃん牛乳は今年の6月で4周年を迎えました。その命や命の一部を私たちに分けてくれる動物は経済動物と呼ばれます。経済性や効率性が重視される環境下で飼われている家畜が多い中、そういった動物でも快適に暮らせる環境のもとで飼育することをアニマルウェルフェア(動物福祉)と言います。今号は、のんびりゆったり過ごしている牛たちを見学したツアーのレポートです。裏面とあわせて、どうぞ最後までお付き合いください。

【成牛舎】

牛が思い思いの場所でのんびりと過ごしていました。松岡牧場長に餌の種類のお話を伺った後は、サイレージで発酵させた稲わらや、飼料米をペレット状にしたもの、おから、ウイスキー粕などを子供たちが各自配合して餌やり体験をさせていただきました。パスちゃんが食べているものは地元産の飼料米やエコフィードと呼ばれる食品副産物です。また、牛の糞尿はたい肥化してバイオベッドと呼ばれる肥料にして牛舎に敷いたり、牧草やデントコーンの肥料にも使われており地域循環が確立していることも教えていただきました。



飼料の説明をする松岡牧場長



餌を自分でミックスして牛さんにあげました



見学が終わり、いよいよ鍋でコトコト温めた搾たての牛乳の試飲です☆ほんのり甘くてさらっとして美味しく優しい味が心と体にしみわたりました。帰りの高速道路では大きく綺麗な虹が私たちを見送ってくれました。牧場の方やパスちゃんに感謝しながら、これからも放牧パスちゃん牛乳をいただきたいと思いました。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました!!



活動報告

5/24 畜産学習会「国産肉を食べ続けるために」

エルパーク仙台にて「国産肉を食べ続けるために」をテーマに組合員と生産者が参加して畜産学習会を開催し、農的デザイン研究所代表の蔦谷栄一先生から『日本農業における畜産の位置づけと役割』と題して講演いただきました。

欧米諸国の高い食糧自給率と比べて、稲作文化圏(日本・中国・韓国・台湾など)の食料自給率が下がっており、食生活の洋風化が進み、肉を食べる文化が浸透しています。しかし日本の畜産は経済性の高さだけを追い求めた結果、えさを輸入飼料に依存し、肥育は狭い舎飼いで行うことが普通であり、危機的状況にあると指摘されました。土地、自然、環境、コミュニティがあつてこそ農業は成り立つという地域農業という考え方を取り入れ、畜産本来の姿である地域の飼料を活用し育てること、放牧により生き物を生き物らしく育てることこそが現在の危機的状況からの脱出だと強くお話しいただきました。また畜産はコストがかかるものであり、これを理解してくれる1割の消費者と、ともに進む畜産生産者が社会を変えていくこととお話してくださいました。

農業を守ることは私たちの命、土の命を大切にすることに通じます。『生きた命』をいただいて私たちは生かされているわけです。感謝を忘れず、命を大事にするあいコープ生産者が行っている循環型の畜産を支えたいと思いました。

あいづらんど運動推進委員会よりお知らせ

- 産地交流 天童果実同志会にて9月中旬予定
 - 学習会 ネオニコチノイド系農薬について1月予定
- 詳細はチラシまたはあいコープみやぎのHPでご案内します。
みなさんのご参加お待ちしております(^_^)

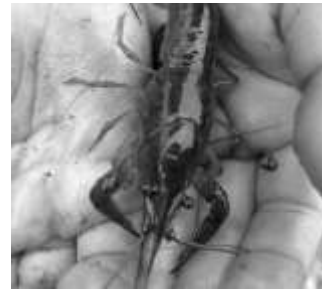
◇◇あいごはんレシピ募集中!◇◇

みなさんのあいごはんを募集しています。あいコープみやぎHPより
【あいづらんど商品】→『あいごはん』投稿ボタンをクリックしてご応募ください!



7/1

田んぼに行こう! 生きもの調べ(仙台えんのう倶楽部協力)



大郷みどり会、郷右近さんの田んぼにて開催されました。親子 80 名が暑さに負けず、汗を流しながらたくさんの生きものを採取しました。田んぼの周辺は雑木林なので、様々な種類の昆虫や、おたまじゃくし、かえる、ザリガニ、ドジョウなどをみつけることができました。ネオニコチノイド系農薬不使用、無農薬の交流田もあるからこそ、安心して子ども達と生きもの調べが出来ます。たくさんの種類の生きものを採取したお友達には、G メール野菜 BOX のプレゼントもあり、楽しい時間を過ごしました!

写真左上) 採取したザリガニ。
写真左下) とったぞ! ザリガニも元気いっぱい捕まえるのも大変だ。
写真右) 「たくさん生きものをとった人~?」



6/17

畑に行こう! 第3回「落花生の種まき」

(仙台えんのう倶楽部協力)

4月から始まった、畑に行こう! 今回は秋に収穫する「落花生」の種まきです。13 家族、31 名の皆さんが集まり、作業の説明を聞きます。「落花生の種は、皆さんが食べるピーナツの部分です」家族に20粒ずつ渡され、マルチを張った畝に穴をあけて1穴2粒ずつ播いていきます。「種を播くときは深すぎても、浅すぎてもだめですよ」地表から深すぎると発芽がうまくいかず、浅すぎると鳥たちが見つけて食べてしまう恐れがあります。「落花生、花が落ちると書くけれど、地面に花が潜るのですか?」素朴な質問に、「黄色い花が咲いた後、花の付け根から子房柄という先のとがった蔓が伸びて、地中に入って実をつけるのですよ」と仙台えんのう倶楽部の井上さん。これからも毎月畑に通うと、いろいろな作物の姿を見られますね。来月はジャガイモの収穫予定、順調に育つと良いですね。



写真上) 井上さん(左端)の説明を受ける参加者の皆さん。
写真下) 会場の畑